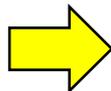


R7年度 緑のカーテン育成日記【前期】

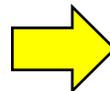
今年度も昨年度同様、北公民館のバルコニーにて、プランターを用いた育成を開始しました。今回は、3つのプランターのうち、1つにはかぼちゃの種を蒔いて、ゴーヤ苗と同時並行で緑のカーテンを育成します。

5/17(土)~5/20(火) 支柱組み立て、ゴーヤ苗の植え付け・かぼちゃの種蒔き

①まずは、昨年度使用した棚支柱セットを組み立てました。プランターの下には、ベランダのコンクリート床からの熱を防ぐため前回は木材板を使用していましたが、今回はホームセンターにて育苗箱いくびょうばこを購入して設置しました。<5/17(土)>



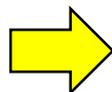
支柱組み立て



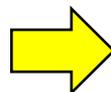
ネット設置



②次に、どじょう土壌の準備をしました。まず、プランターが風で飛ばされないように、底に石を入れました。その後、新たに購入した土を適量投入しました。その後1つのプランターにつき、石灰肥料と化成肥料をそれぞれ握りこぶし1つ分を目安に与えました。肥料は土壌の隅々に行き届くようによくかき混ぜました。<5/20(火)>



土の投入



肥料の散布



③土の乾燥防止や風による飛散防止のため、黒マルチで表面を覆いました。その後、植える部分に穴を開けて1つのプランターにつきゴーヤ苗を2株ずつ定植しました。今回は前年度と異なり、プランターの1つには、2カ所にかぼちゃの種を蒔きました。<5/20(火)>

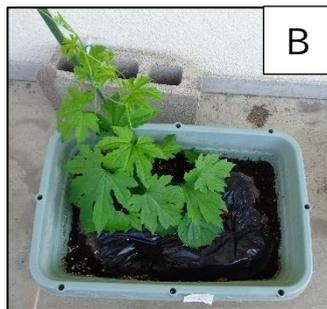
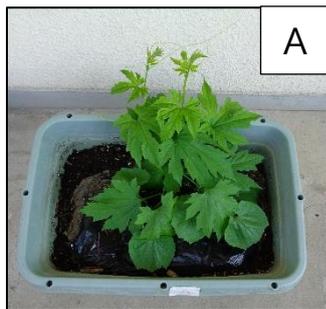
プランターAとBにはゴーヤ苗^{ていしょく}を定植

プランターCにはカボチャの種を蒔く

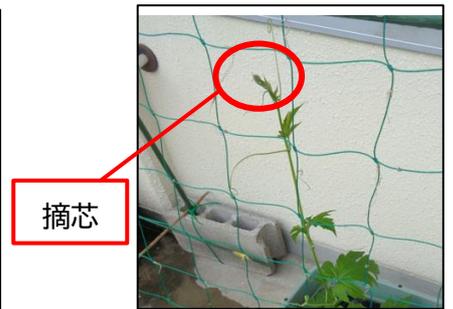
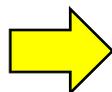


5/21(水)~6/11(水) かぼちゃの発芽、ゴーヤツルの成長

○定植後、最初のうちは午前・午後のいずれか1回のみ水やりを行いました。1週間経った頃から、規定量より薄いハイポネックス(液体肥料)を混ぜた水を2週に1回与え、活力剤としての効果を期待しました。その結果、ゴーヤ苗はいずれも本葉が徐々に増加(画像 **A**・**B**)し、かぼちゃは2カ所とも発芽しました(画像 **C**)。



○6月に入って気温が高くなってきてからは、水やりを朝夕の2回行いました。定植から2週間を超えると、ゴーヤ苗はツルを伸ばし始めるため、カーテンになるように手で巻き付けるなどして緑のネットに誘導しましたが、時間が経つとツル自らネットに巻きついてくれました。さらにそのまま親ヅルがまっすぐに伸び続けて、およそ60cmの高さにまでなりました。そこで、少し遅れてツルの先端(画像右下赤印部分)の摘芯^{てきしん}(切り取り)を行い、わき芽が成長を開始し、左右に枝分かれした子ヅルが生えてくるようになりました。



摘芯

6/18(水)~6/25(水) ゴーヤの開花、ツルの成長と雌花の結実、かぼちゃの葉の成長

ゴーヤのツルは日に日に左右に枝分かれしてカーテンに絡まり、高さも 160cm、180cm と徐々に成長していきました。18 日の時点で開花も見られ、黄色い可愛らしい花が咲きました。ツルが 180cm を超えたあたりから、受粉した雌花の結実^{けつじつ}(後にゴーヤになる部分が実ること)も見受けられました。一方で、プランターに近い部分の変色した葉については、その都度除去し、通気性を確保しました。かぼちゃもツルこそ伸び悩んでいましたが、本葉は大きく成長し始めました。



160cm
超え



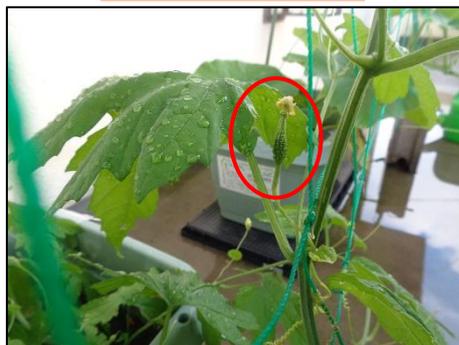
180cm
超え



ゴーヤの花



ゴーヤ雌花の結実



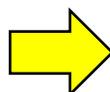
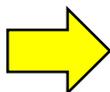
かぼちゃの本葉



6/27(金)~7/2(水) ゴーヤツルの広がり、かぼちゃの急成長

かぼちゃも本葉がさらに大きくなり、ツルも徐々に伸び始めました。ハイポネックス(液体肥料)混合水の効果も相まって、7/2 にはかぼちゃツルが 160cm に到達し、開花しました。最初は雄花が咲きましたが、日が経つにつれ雌花(実ができる花)のつぼみも見受けられました。ゴーヤも花が無数に開花し、葉も左右に広がってきたためカーテンになり始めていました。

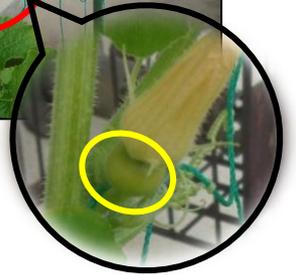
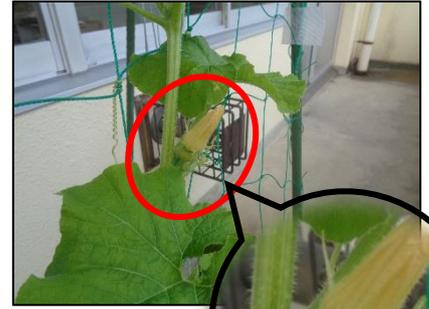
かぼちゃツルの成長過程



かぼちゃの雄花(花の下にふくらみがない)



かぼちゃの雌花
(花の下にふくらみがある<黄印>)



7/4(金)~7/11(金)かぼちゃの花複数開花、結実したゴーヤの成長

ゴーヤの実は徐々に大きくなってきました。かぼちゃの茎は、育ちの悪い方を間引きし、残した1本の茎の先端を摘芯しました。また、それぞれの土壌に、バットグアノ(コウモリの糞や死骸等が化石化した有機肥料)を追肥しました。しかし、その後、かぼちゃは花が複数咲きましたが、実となる雌花の部分が茶色く変色してしまい、一向に育つ気配がありません。ゴーヤに関しても、実は大きくなっているものの、上部の葉が成長していないことが分かりました。

ゴーヤは実こそ成長しているものの(赤印)、カーテンの上部に行くほど葉が小さく、密度が小さい(スカスカ)状態になっている。葉の色も全体的に鮮やかな緑色というよりは少々黄緑がかっている。

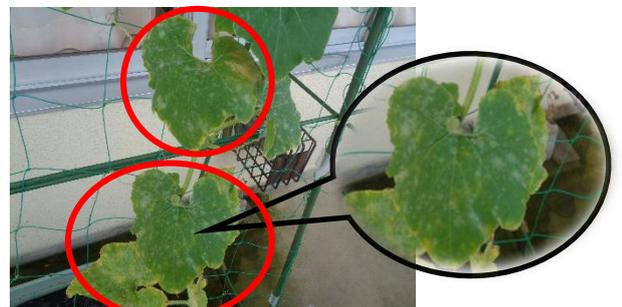


かぼちゃは雄花が複数咲いているが、雌花の数が少ない。また、かぼちゃの雌花の子房(実となる部分)が茶色く変色している(赤印)。加えて、かぼちゃの葉に白斑病はくはんが発生している箇所が複数あり、その都度剪定した。ゴーヤよりもさらに成長が伸び悩んでいる印象を受けた。(※以下は全てかぼちゃの画像)

↓の花は全て雄花

変色した子房

葉の白斑病(他の部位に伝染するので、全て剪定)



7/12(土)~7/19(土)土壌の修正、追肥、再びゴーヤツルの摘芯

ゴーヤ、かぼちゃともに成長が停滞している点について、対処してみました。

①まず、ゴーヤについては、複数の子ツルの先端をさらに摘芯しました。理由としては、このままだと子ツルが上に伸び進んでいくだけで密度の高いカーテンにならないので、先端にある成長点を摘み取ることで、ゴーヤが新たにわき芽を生やし、ツルをさらに左右に枝分かれさせるねらいがあります。

②続いて、ゴーヤの実の成長のみに栄養が吸収されてしまうのを防ぐため、付いている実は小さいものを含めて全て収穫しました。中には既に成熟した実もありました。

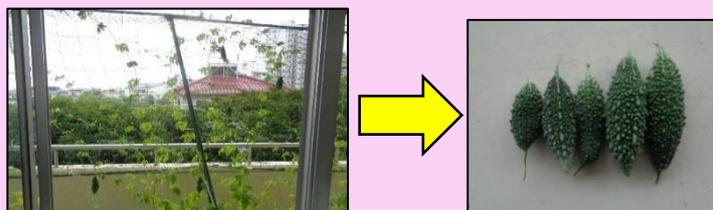
③最後に、当初の土壌作成時、土の投入量が不十分であったため、3つのプランターとも土を追加で投入しました。これは現時点の量での根張りの弱さや水・養分吸収の悪さを可能性として考慮しました。加えて、今まで覆っていた黒マルチの長さを短くして再度土壌を覆いました。これについても、黒マルチの覆い方やその長さに問題があり、水や養分が土全体に適切に行き渡っていなかった可能性を考慮しました。その後、根焼けに注意して、それぞれのプランターに化成肥料を追肥して様子を見ることにしました。

④1週間様子を見ましたが効果が出ないので、黒マルチをはぎ取り、わりばしを土に刺して土壌に空気をいれました。土の表面は非常に硬く、根が上手く張らなかった可能性も成長停滞の要因として考えられました。実際に地表に出ている根も見受けられました。今後は、黒マルチがない状態で育成し、その都度土の湿り具合を注視しながら水やりの量を調整することにしました。

①ツルの摘芯



②ゴーヤの実の収穫



③土と化成肥料の追加



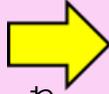
土を追加して、根張りを改善する。



黒マルチを短くして再度適切に覆う。



④土壌へ空気を入れる



わりばしを刺す



土壌が粘土状になってしまい、地中に潜れずに地上に出ている根っこが散見された。



前期の記録は以上となります。